月鉾の月に風吹く夕べかな　氷室茉胡
月鉾の鉾先ゆれて雲静か　鎌倉英二
夕空に高く影して月の鉾　岩井善子
つゆ弛びなく月鉾に縄からむ　石川桃瑪
月鉾やしづかなる月宿しぬて　大谷弘至
よぎりゆく月鉾見えし小路かな　長谷川櫂
月鉾に仕ふる月の奴かな　同
月鉾に灯の入るころのよかりけり　同
月鉾や草花の露揺るるらん　同
月鉾やふりさけ見れば東山　同
月鉾をまことの月の照らしぬる　同
月鉾の月ひらひらと炎天に　同

【船鉾】

ざざ降りや船鉾は川渡るごと　斎藤真知子
船鉾を流さんばかり大夕立　近藤沙羅
船鉾や波のやうなる東山　中村汀
船鉾の幟はためく大路かな　同
胴ぶるひしつつ船鉾わたりゆく　同
船鉾の舵は扇にまかせけり　山根雪
船鉾に上りきらざる園児かな　清田喜代子
船鉾の波たててゆく涼しさよ　上松美智子

【大船鉾】

凱旋の大船鉾の唐櫃や　澤田美那子
しんがりは大船鉾の唐櫃よ　木下洋子

【鶏鉾】

鶏鉾回しすぎたるをかしさよ　角野京子
鶏鉾こどもの綱に曳かれけり　同

【函谷鉾】

都ごと曳いてゆくなり函谷鉾　安藤久美

【菊水鉾】

天に咲く菊水鉾の菊一輪　本橋康子
雨の中菊水鉾を見るまでは　安藤久美
天駆くる菊水紋の鉾頭　馬淵可奈
蜻蛉とぶ菊水鉾のてつぺんを　近藤沙羅
したたるや菊水鉾の菊の露　諏訪いほり
菊水鉾菊の雫を滴らす　藤英樹

【芦刈山】

閑かなり葦刈山の立つあたり　本橋康子
古り古りし小袖床しや芦刈山　同
行き止まり芦刈山の灯は冥し　岩根壽美

芦刈山賤男は芦刈りにけり　中村汀
一番の山は芦刈鉾は月　同
芦刈山小袖たふとく祭られて　伊藤昭子
芦刈山雲足早くなりにけり　植田房子
芦刈山身につまさるる齢かな　横山幸子
人混みを避けて芦刈山の灯に　澤田美那子
我もまた芦刈山にゆかりあり　長谷川櫂
その昔男ありけり芦刈山　同
芦刈山我も翁となりにけり　同
その人に芦刈山のよき句あり　同

【蟷螂山】

飛ぶ翅のみどり美し蟷螂山　本橋康子
蟷螂山鎌振り上げて喜ばれ　木下洋子
新しき胴懸けうれし蟷螂山　中村汀
蟷螂山頭もたげて翅ひろげ　堀野英子
蟷螂山なごりの羽をひろげたり　丹野麻衣子
蟷螂山けふはかまきり機嫌よき　横山幸子
蟷螂山今宵は翅を休めをり　坂口和子
蟷螂は山の行く手を祓ひつつ　角野京子
蟷螂山さても夜風に飛びさうな　石川桃瑪
京女一番好きは蟷螂山　上松美智子
炎天にかつと見ひらき蟷螂山　伊藤昭子
鉾祭青田の色の蟷螂山　石塚純子
蟷螂山ただならぬ世に羽広ぐ　藤英樹
蟷螂山斧に闘志のあるごとく　佐々木まき
赤ん坊の立つて喜ぶ蟷螂山　長谷川櫂

【木賊山】

ものがたり聞けば哀しや木賊山　本橋康子
あをあをと木賊植ゑたり木賊山　近藤沙羅
四五人の男が立つる木賊山　岩根壽美
木賊山この世の木賊一束　丹野麻衣子

【岩戸山】

岩戸山近江の松を美しく　佐々木まき
この先の道のくらがり岩戸山　岩根壽美
高々と鉾にも似たり岩戸山　本橋康子
くら闇をくだく太鼓や岩戸山　上田悦子
石持に石ざくざくと岩戸山　上田忠雄

【孟宗山】

あらためて亡き父母偲ぶ孟宗山　太田芳男
孟宗山雪おく松を炎天に　藤英樹